

製品名: STAT5a ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe86440**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,FC,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	-
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質を含む溶液で提供されます。受領日から12ヶ月間安定です。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:200-1:1000,ICC/IF 1:100-1:500,FC 1:50-1:200,IP 1:20-1:50
分子量	Calculated MW:91 kDa; Observed MW:91 kDa

抗原情報

遺伝子名	STAT5a
別名	MGF; STAT5
遺伝子 ID	6776
SwissProt ID	P42229
免疫原	ヒト STAT5a の合成ペプチド

背景

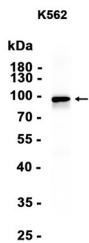
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、転写因子 STAT ファミリーのメンバーです。サイトカインおよび成長因子に反応し

て、STATファミリーのメンバーは受容体関連キナーゼによってリン酸化され、その後ホモ二量体またはヘテロ二量体を形成して細胞核に移行し、そこで転写活性化因子として作用します。このタンパク質は、IL2、IL3、IL7、GM-CSF、エリスロポエチン、トロンボポエチン、および様々な成長ホルモンなど、多くの細胞リガンドによって活性化され、それらの応答を媒介します。TEL/JAK2 遺伝子融合に関連する骨髄腫およびリンパ腫におけるこのタンパク質の活性化は、細胞刺激とは無関係であり、腫瘍形成に必須であることが示されています。この遺伝子のマウス対応遺伝子は、BCL2L1/BCL-X(L)の発現を誘導することが判明しており、これは細胞内でこの遺伝子が抗アポトーシス機能を持つことを示唆しています。この遺伝子には、選択的スプライシングを受けた転写バリエーションが見つかっています。[RefSeq 提供、2013年12月]

研究分野

-

画像データ



STAT5a ウサギモノクローナル抗体を 1:50000 で使用して、K562 細胞抽出物のウェスタンブロット分析を行いました。